



千葉動力車

11月26日 年末手当格差回答許すな！ 26日 貨物緊急総決起集会へ！

格差回答許すな

動労総連合は、十月三〇日、年末手当の支払いについて、JR東日本に対し三・五箇月分、JR貨物に対しては三・六箇月分を要求する申入書を提出。以降、団体交渉を中心とした取り組みを全力で行ってきた。年末手当交渉は、すでに、東日本会社と二回、貨物会社とは三回行われている。

とくに貨物会社は、この間の交渉のなかで、営業収入の全般的な落ち込みや、新フレイト21大合理化計画の初年度であることなどを理由として、これまで以上の超低額・格差回答を行おうとしている状況にある。貨物会社は、団交での追及に対して、「生活給の要素がないとは言わないが、収入と支出ぬきにボーナスを議論することはできない」「貨物会社には、構造的な問題があることは確かだが、経営ぬきに支払うという訳にはいかない」などと繰り返し、分割・民営化政策の大失敗の結果としての貨物会社の経営危機をすべて労働者に犠牲転嫁しようとしているのだ。断じて許すことはできない！

ここまで拡大した格差！

JR貨物と東日本の昨年末と今夏の一時金回答は次のとおりであった。

	昨年末	今夏期
貨物	二・五五	二・三
東日本	三・一五	二・六

すでにその格差は年間で〇・八分に至っている。ベ・アの格差も考えれば、その差は実際にはより一層広がっている。しかし、貨物会社は、ここまで拡大した格差の上に、さらに「この年末は昨年の夏並みに出すのも難しい」などと隠然と主張し、徹底した賃金の抑えこみ強行しようとしているのだ。まさに賃下げ攻撃に他ならない。

怒りは沸騰点！

貨物会社の経営破たんは、言うまでもなく分割・民営化の必然の結果に他ならない。初めから経営が成り立つはずもない仕組みをつくり、その結果を労働者にすべて押しつけているだけのことだ。しかも、今年の「基本問題懇談会」の報告書でも、根底にある構造問題は何ひとつ方針をだすことなく全て先送りし、大合理化だけをノルマとして課したのである。冗談じゃな

い！怒りは沸騰点に達しようとしている。

JR貨物労組は、新フレイト21大合理化攻撃の全面的な容認のうえに、年末一時金の超低額・格差回答の受け入れに動こうとしている。否、初めからどんな低額でも会社の言いなりに妥結しようと決めているのだ。労働者に大合理化と労働強化、賃下げを強制する当局の先兵、JR貨物労組はすべての貨物労働者の敵だ。いまこそJR貨物労組を解体しなければならぬ。この結託体制を打倒することなしに、貨物労働者の未来はないのだ。

緊急集会へ！

年末手当交渉は来週二五日、二六日が焦点になると予想される。闘いは超低額・格差回答粉碎に向けた最大の山場を迎えている。

動労千葉は、こうした状況にふまえ、十一月二六日(水)十三時より、千葉機関区構内において、貨物会社の格差回答を許さぬために、緊急総決起集会を開催することを決定した。貨物の仲間たちの怒りをわがものとして、全支部から緊急総決起集会に全力で結集しよう！

JR貨物の年末手当格差回答粉碎！

11/26 動労千葉緊急総決起集会

●11月26日(水) 13時～

●千葉機関区構内

各支部とも緊急全力動員